

令和八年度入学者選抜試験問題 国語 解答例

一 解答例

問1 a 漠然 b 貫 c 遺産 d 隔 e 依然

問2 「最初は、自分のなかに生まれた感覚を、東京のこの場所が戦争を憶えているというような土地の記憶だと感じたが、自身の記憶やイメージというよりも、私的な心の輪郭を超えて広がる記憶のようにも思われるようになった。東京だけではなく、広島・長崎の原爆も沖縄の地上戦も、世界中の様々な場所における無数の限らない悲しみを含むものでもあると思ひ直し、場所ではなく夏という季節が記憶しているのだと考えるようになった」というようなことが書いてあれば可。

問3 「それまでの段落で、季節が記憶しているということがあると述べてきたことに接続して、気候変動や異常気象という問題が起きると季節感とともに記憶も忘れられてゆくのだろうかという新たな問いを提示する役割と、その後の段落でその気候危機の主たる要因の西洋近代技術がもたらすテクノロジーカルな記憶がもたらす問題について論じる起点ともなる役割を果たしている」というようなことが書いてあれば可。

問4 「筆者は、戦争の記憶を継承するということは、もう戦争をしない、という立場に立っている。筆者はその立場から、西洋近代におけるテクノロジーの取り入れとは、進歩主義的で啓蒙主義的な歴史意識を形成する一面で、植民地主義的で民族主義的な歴史意識を避けがたく取り込み、世界史の主役の座をめぐり凄惨さを増して繰り返され続ける戦争に飲み込まれてゆくことでもあったことを問題にしている」というようなことが書いてあれば可。

問5 「曖昧な感覚によって自分が経験したのではない記憶を季節の記憶として思い出したと、ただ何となく思い込むというこ

とは、人々が記憶の継承にかけてきた誠意や努力への尊敬を欠き、ともすると真実を歪めることで踏み躪ることにさえなりかねない、と筆者が考えているため」というようなことが書いてあれば可。

二 解答例

問 6 ①居場所を得て、我が物顔に ⑥どのようにしようか、どうにもならない。

問 7 ②同格の格助詞「の」 ④打消の助動詞「ず」の連体形

問 8 末摘花の住む邸宅を所望している者に売り渡してくださるよう求めた。

問 9 荒れて木霊も出るような恐ろしげで古びた邸宅だが、生前の父宮の姿が思い出される家であり、馴染み深くて心が慰むのだということを行っている。

問 10 名工の作った立派で美しい調度品を、求めに応じて軽薄で半可通の身分の低い人たちに譲ることは、娘である末摘花が使うようにと遺してくれた父宮の遺志に反することだと考え、生活が苦しくても売り渡すことはせず、このまま調度品に囲まれて暮らしていきたいと考えている。

三
解答例

問 11 a 「いかん(せん)」、b 「また」、c 「むしろ」

問 12 「寡人^ハ 欲^ス_下 割^{キテ}_二 河東^ヲ 而^{セント}_上 講^セ」

問 13 (書き下し文) わう「おう」なんぞこうしのしをめ「せう・しょう」してとは「わ」ぎる(と)。

(現代語訳) 王様はどうして公子の汜様をお呼びになって、お尋ねにならないのですか(と)。

(現代語訳別解) 王様はぜひとも公子の汜様をお呼びになって、お尋ねください(と)。

問 14 秦王は、たとえ三国と和睦をして国家の危難を免れたとしても、河東の三城を割譲する必要はなかったのではないかと考え、自らその土地を献上したことを後悔するだろうし、逆に和睦をしなかった場合でも、河東の三城を惜しんだばかりに三国に攻め込まれ、国家存亡の危機に陥ったことを後悔することになるということ。

問 15 「講」